

今春の新作「桜の香りのする着物」を披露する佐藤敏孝代表と妻の美津子さん



北上の呉服店開発、20日発表

和服からほのかに桜の香り。北上・展勝地の桜を原料とした「さくら染め」を製作している北上市鍛冶町の呉服店「さくら染家 和の衣さとう」は二十日、「桜の香りのする着物」を発表する。開発十年目を迎えた「さくら染め」に香りを加えたユニークな一品。考案した佐藤敏孝代表(56)は「五感に訴える全国でも珍しい着物として、多くの人に見てもらいたい」と話している。

「桜の香りのする着物」は、佐藤代表が近年見直されている香りの文化に着目、昨年夏ごろ、京都市の染色工場と開発に着手した。

試作を重ね、黄色や紫の色

和服から桜の香り

独自染色に一工夫 極小カプセルを付着

無地反物と、淡いピンクが華やかなうけつ染め反物の計六点が完成。三、四回重ねて染め上げており、さまざまの色合いが楽しめる。

香りの秘密は、桜から抽出した香りを封じ込めたマイクロメートル(一ミリの千分の一)単位のカプセル。繊維に付着させ、生地がこすれることによってカプセルがはじ

け、ほのかに香りがただよぶ。香りほのかに香りがただよぶ。香りはクリーンクしても消えることなく長く楽しめるという。

鮮やかに染めるためには、色素が豊富な咲く直前の枝が適しており、佐藤さんが剪定された枝や落ちた枝を集め、チップ状に加工して染料に活用している。

同店は一九九八年から「さ

くら染め」開発を始めた。京都の草木染メーカーと協力し、北上市の極楽寺で行われていたとされる草木染に着想を得て、北上市の木の桜を使って染め上げた。

九九年に第一作を発表。毎年テーマを変え、これまでに京友禅やつむぎ、刺しゅうを施した反物などを発表してきた。佐藤代表は「香りという形のないものだが、インパクトはあると思う。日本の香道を思わせる奥ゆかしさを感じてもらいたい」と語る。

試作品を試着した妻の美津子さん(56)は「桜の花はみんなに愛されている。袖を振ったときや立ち止まったときにふと気付く、清潔な香りを染しんではい」と魅力を語る。

発表会は同店で二十四日まで。開店時間は午前十一時～午後八時。問い合わせは同店(0197・64・0843)へ。ホームページは<http://www.wanakoromo.co>